

IV. 教育アセスメント

2016年4月、本センターに「教育アセスメント室」が設置されました。溝上慎一教授(室長)と山田剛史准教授のスタッフ体制で室の業務に取り組んでおります。

教育アセスメント室の主な業務は、

- ・全学や部局の教学IR (Institutional Research)、教育に関するアセスメント、エビデンスの収集等に関して支援・連携を行うこと
- ・そこから得られる知見や成果を、高等教育研究開発推進センターの全学・部局の教育学修支援に繋げることにあります。

1. 「京大生プロフィール」の開発

教学運営を支える教学IR推進の一環として、学生の学習実態や、全学・部局の教育ポリシーに関する学修成果(教務データや調査データ等)を多面的・縦断的に把握し、教育・入試改革の検証や改善に資するため「京大生プロフィール」(eポートフォリオシステム)を設計・開発しました(図1)。京都大学の既設サーバー上で運用するシステムである京大生プロフィールには、全学の教学IRのデータベース、データウェアの機能を持たせつつ、学生自身の学びの足跡を可視化するeポートフォリオとしての機能をも持たせるものです。

京大生プロフィールは、(1)学生が自らの学びと成長を振り返り自己評価眼を身につけること、(2)教員が学修支援・指導の手段(対話のツール)として活用すること、(3)学部・学科等が教育改善を促すためのデータとして活用すること、(4)学部・学科等が外部評価等に対応する際の根拠資料(エビデンス)として活用することを可能にするシステムとなっています(図2)。

一つでも多くの部局の支援につながればと思います開発を行いました。部局ごとにある程度カスタマイズすることも可能ですので、ご興味・ご関心を持たれた際には、ぜひ教育アセスメント室までお問い合わせいただければと思います。

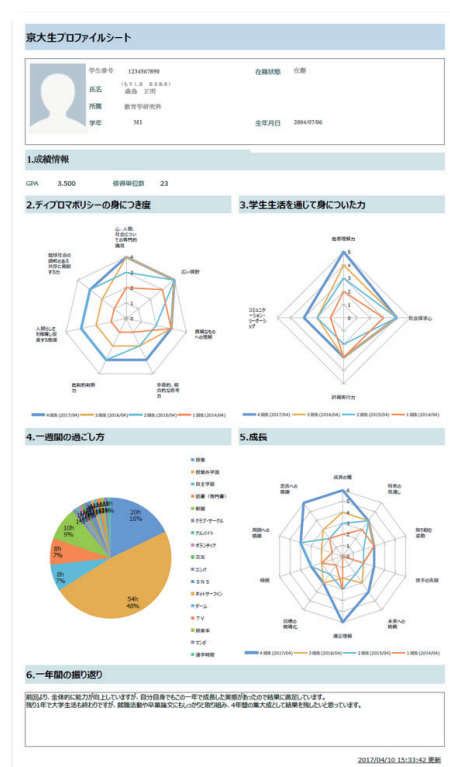


図1 京大生プロフィールのイメージ



図2 京大生プロフィールの利用可能性

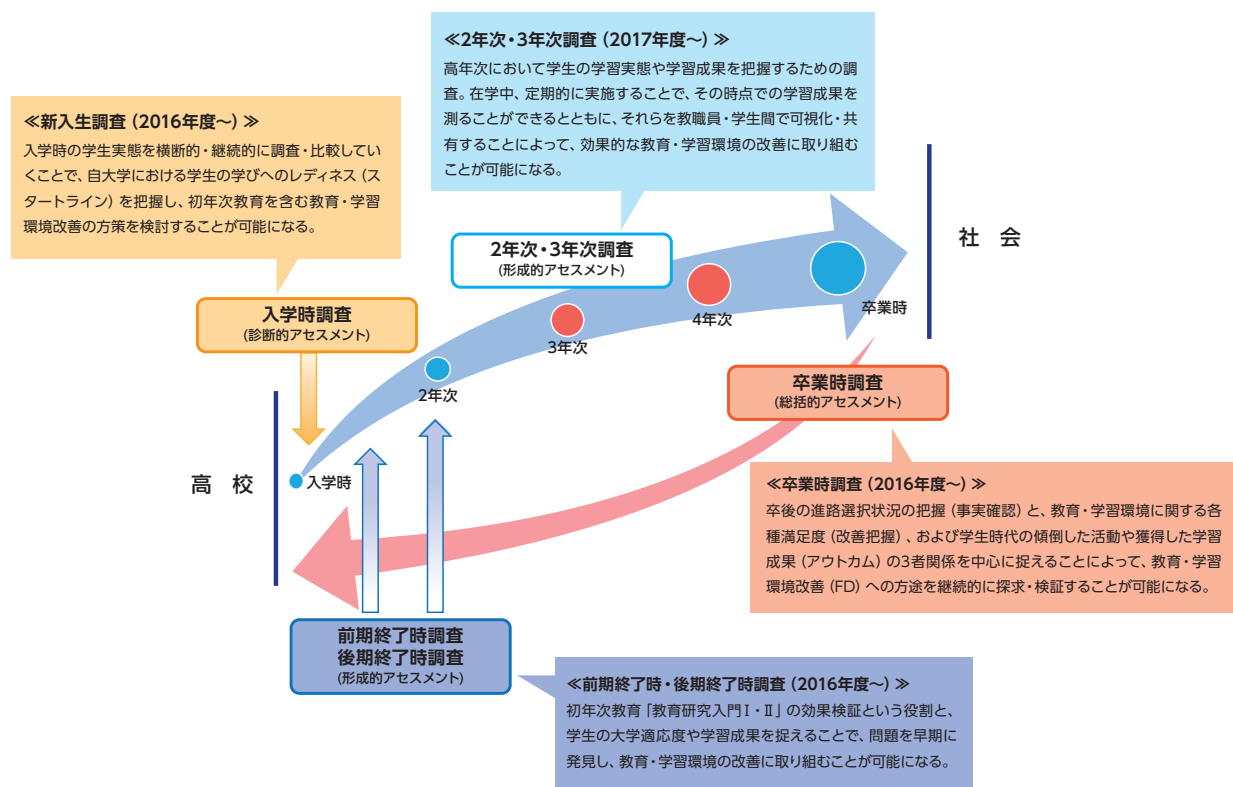
2. 教育学部との連携

2016年度より、教育アセスメント室は、教育学部における教育アセスメントの支援・連携を行っています。2016年度には、主に以下の3つの活動を行いました。

- (1) 教育学部初年次専門科目「教育研究入門Ⅰ・Ⅱ」(通年)における学生アセスメント(入学時、前期終了時、後期終了時)を通じた効果検証と教育改善支援
- (2) 特色入試追跡調査WGにおける特色入試入学生への質的・量的調査の実施
- (3) 自己点検・評価委員会主催の教育学研究科セミナーでの情報提供および同委員会と協働による卒業時・修了時調査の設計

この詳細および成果については、2016年度の『京大のFD 2016』(p.22-23)や『京都大学高等教育研究』(第22号、p.55-66)などでも紹介させてもらっています。こうして、入学時、前期終了時、後期終了時、そして学部卒業時、研究科修了時に一貫性を持つ形で、新たな調査が作成・実施されました。この間、話題に上っているディプロマ・ポリシーの検証という意味でも、調査の中に組み込むことでこれに応えられるように設計しています。

2017年度は、こうした取り組みを継続させるとともに、整備されていなかった2年終了時と3年終了時の調査を作成し、実施に取りかかっています。これで、入学から卒業まで継続的に学生の学習実態や学習成果を把握する仕組みが構築されました(下図参照)。



教育学部における教育アセスメントの支援・連携(2016年度〜)

教育活動の成果をどのように捉えることが可能なのかといった点も含め、教育アセスメントは現在の高等教育において重要な役割を担っているものだと思います。小さな所帯ではありますが、可能な限り部局固有のニーズなども踏まえながら支援・連携を行うことができればと思います。

(山田 剛史・溝上 慎一)